

4週間コース
Cardiff (Wales)



27

4週間コース
Cardiff (Wales)



28

4週間コース
Leeds Castle



29

Canterbury



Private bedroom
with shower

Canterbury Christ
Church University
Dormitory
x 7 nights



Shared kitchen
and dining room

30

Canterbury



31

Canterbury College Tour



32

Paris



33

4週間コース: Paris (Eiffel Tower)



34

4週間コース: Paris (Louvre)



35

4週間コース: Paris (Louvre)



36

4週間コース: Paris (Seine)



37

4週間コース Windsor Castle



38

A Great Success!!!

- English language ability ✓
- Meaningful research ✓
- Professional experience ✓



39



40

Stuart Gale

Fukuoka Prefectural University, 2013

41

活動報告 1. 海外語学実習紹介

(2) 参加学生によるスピーチ

中村侑未（公共社会学科1年）



私は地域づくりを学ぶためにこの大学に入学しました。自分の学びに役立てようと思いこの海外語学実習に参加しました。ロンドン、オックスフォード、バース、イギリスの街並みはどこも花で溢れていて綺麗で、歴史的建築物と現代の建築物が共存しており、日本とは全く違う印象でした。特にバースは、それほど大きい町というわけではないと思うのですが、首都ロンドンにあるお店が立ち並び、いたるところに地図があり、観光客に嬉しい町づくりになっていました。ただ、2007年から屋内での喫煙が禁止になったためか、道端は煙草の吸殻でいっぱい、少し残念でした。イギリスの街並みの良い面、悪い面をこの目で見ることは大変貴重な経験で、自分の夢に役立てようと思っています。

また、イギリス人大学生の学びの意識の高さにも良い刺激を受けました。

英語はコミュニケーションツールとしては欠かせないものですが、この大学ははっきり言ってそこまで英語に力を入れているわけではないと思います。私もこの海外語学研修に参加するきっかけがなければ、英語の勉強をやめていたと思いますし、イギリス人の大学生から良い刺激を受けたからこそ、今もなお、英語の勉強を続けられています。

今、世界の目はアジアに向かっています。私が訪れたのはイギリスとフランスですが、1ヶ月間みっちり異文化交流出来たことで、かなり自信ができました。

海外語学実習に参加して本当によかったと思っています。

活動報告 2. 社会貢献論演習成果発表

(1) 「Ritorovo CoCoITA ができるまで」

阿部 巧(公共社会学科3年)、藤本昂平(公共社会学科3年)

馬場友美(社会福祉学科3年)

1. きっかけ

平成22年度の社会貢献論演習を受講していた当時1回生の私たち3人は、フィールドワークを通して地域の社会貢献活動を学んでいました。次のフィールド活動について担当教員を含め話していたとき、伊田商店街の名前がわかりました。「伊田商店街は昼でもシャッターが閉まっているところが多く、少し寂しい感じがする」、「大学近くの商店街は活気があるイメージだったが、実際の伊田商店街のイメージは違っている」という意見があり、急遽、演習の時間を使い伊田商店街を散策することにしました。私たちが初めて伊田商店街を訪れたとき、想像していた学生の住む街の商店街とは違った印象を受けました。そこで「初めて伊田商店街に来た人や春にこの町にやって来る新入生たちが、私たちのように物寂しさを感じることがないように、伊田商店街に元気になって欲しい」という意識が芽生え、伊田商店街の活性化を考えることが私たちの演習のテーマになり、活性化のために私たちに何か少しでもきっかけになるようなことができないかと考えました。

まず、私たちは伊田商店街の現状を知るために田川商工会議所を訪問させていただきました。そこで教えていただいた内容からわかったことは、ターゲットとしている客層が主として高齢者の方々であるということでした。毎年一定の数の学生が入れ替わりながら生活しているこの伊田にある商店街で、学生をターゲットにして商売をされていないことを非常にもったいなく感じ、そのことを正確かつ明確に伊田商店街の方々に伝えることが、伊田商店街の活性化を目指す上でまず必要なことであると感じました。

そして私たちは学生アンケートを作成し、商売のターゲットとするべき学生がどれくらいいるのか、学生の伊田商店街に対するニーズを調

査することに決めて、平成22年12月16日～平成23年1月13日の期間に福岡県立大学1年～3年の675名の学生を対象に、属性と6項目の質問で構成されたアンケート調査を実施し、その調査結果を平成23年3月3日の社会貢献フォーラムⅠで発表しました。

2. 伊田商店街振興会議始動

社会貢献フォーラム終了後、私たちの報告内容を知った伊田商店街振興組合の方々が訪ねてきてくださり、平成23年4月29日に学生側と話し合う機会を設けることになりました。伊田商店街振興組合の方々は私たちの調査に対して好意的に思ってくくださり、このことを受けて学生側と伊田商店街振興組合側で伊田商店街の活性化に向けて活動を行っていくことが決まりました。また、今後の活動内容についての意見交換会を開催することになり、平成23年10月12日、第1回伊田商店街振興会議が行われ、月1～2回の頻度で学生と伊田商店街振興組合、田川市役所、田川商工会議所、田川市市議会議員の方々と、学生側と商店街側で共に行いたいことや活動事業についての助成金、経営維持費等について話し合いを行いました。

伊田商店街で行いたいことについて話し合っていくなかで私たちは、「学生が伊田商店街に集まり、そこで学生と地域の人が交流できる場を伊田商店街内に作りたい」という考えが強くなり、空き店舗を利用したコミュニティスペースを作ることを提案しました。この提案について会議の参加者も「まず学生に商店街へ来てもらうようにする必要がある」と考えられ、伊田商店街の空き店舗を利用したコミュニティスペースを作ることが決定しました。

次にこの活動を行うにあたって利用する助成金について、市役所の方から11月の会議で活動

事業に利用可能な助成金候補の説明をしていた
だき、その候補のなかで「中小商業活力向上事
業」を活用することが決定しました。また活動
を行うためのコミュニティスペースの候補を決
めるため、12月に伊田商店街で行われた田川
工芸祭に利用する空き店舗を視察し、候補を見
つけ報告しました。そして、その候補場所付近
の商店街の方々にこの活動内容について説明し、
理解を得る必要があると考え、12月11日に伊
田商店街振興組合で説明する機会を設けていた
だきました。私たちは商店街の方々に学生調査
を紹介し、学生の思いを伝え、理解を深めてい
ただきました。

その後、助成金の認定要件や他地域の活動を
参考にしながらコミュニティスペースでの事業
概要（通年活用内容・定例的活用内容・イベン
ト内容）、予算について話し合いを続けました。
通年活用内容は主に学生の休憩場所や地域の方
への貸出興業（有料）、定例的活用内容は県立大
サークル等の活動・発表をする場、イベント内
容は被災地復興東北物産展や子ども夜市、田川
工芸祭などで使用するとしました。

また、利用時間や利用料の設定、運営委員会
等コミュニティスペースで活動するために必要
な運営規定や利用規定の作成を行いました。コ
ミュニティスペースは(1)学生同士の交流(2)組
合事業(3)学生、組合、商店街利用住民等の交流
の場(4)イベント時の拠点(5)学生及び組合並び
に地域住民等のためにカルチャースクール等を
開催するため、貸し出しの許可を与えた者(6)
その他運営委員会が必要と認めたときに使用可
能と決めました。利用時間は午前10時から午後
6時まで（ただし委員会が時間延長について必
要と認めた場合は、この限りではない）としま
した。そして「学生がいつでも寄れる場所、気
軽に使用できる」ことが重要であると考え、学
生がコミュニティスペースを利用する際、利用
料は無料にすることを決めました。

3. コミュニティスペース名称決定・開所式

平成24年5月の会議で助成金の交付がおりた
ことが報告され、利用する空き店舗の改装が開
始されました。完成は平成24年7月中旬あたり
ということで、開所式を子ども夜市が行われる
7月28日に行うことが決定しました。開所にあ

たって、コミュニティスペースの名称を県立大
生に募集することになり、学生が伊田商店街コ
ミュニティスペース名称募集をかけました。そ
れらの名称案を会議に持っていき、吟味した結
果、「Ritrovo CoCoITA」に決定しました。

「Ritrovo」はイタリア語で「たまり場」という
意味で、「ここにいたい」と「伊田」を掛け合
わせており、学生にコミュニティスペースをいつ
でも、気軽に利用してもらいたいという思いが
こもった名称になりました。

そして平成24年7月28日、完成したコミュ
ニティスペース「Ritrovo CoCoITA」の開所式が
行われました。会場には私たち学生とこれまで
会議に参加された伊田商店街振興組合、市役所、
田川商工会議所、田川市市議会議員の方々の他、
田川市長の伊藤信勝氏、サポートしてくださ
った教員、近隣住民等多くの方が来てくださ
いました。また当日から、県立大の写真サークル「写
楽」による写真展が開催され、多くの方が
Ritrovo CoCoITAを訪れていました。

4. これからの課題

これからの課題はRitrovo CoCoITAの存在を
学生にどのように周知させ、多く利用してもら
うようにするかだと考えています。現在、学内
にポスター等を貼っていますが、まだ多く利用
してもらうまでには至っていないのが現状です。
特にRitrovo CoCoITAを利用するにはどこに連
絡をとればよいか、まだ学生に認知されてい
ないと思います。現在の利用申請・問い合わせ先
が伊田商店街振興組合への電話連絡になってい
るのですが、学生がいきなり伊田商店街振興組
合に電話で利用申請するにはなかなか勇気がい
るものだと思うので、もう少し学生が申請しや
すい方法を考えるべきだと思います。今後も学
生やサークル団体等にRitrovo CoCoITAの存在
を周知させるとともに、学生が利用しやすいよ
うに利用方法等を修正していくことが必要であ
ると思っています。

5. この活動を通して学んだこと

私は、ゼロからモノをつくりだすことの面白
さを経験できたと考えています。コミュニティ
スペースをつくることは商店街の方々も学生も
初めてのことで、最初はお互いに戸惑いばかり

がありました。しかし、話し合いが進み地域交流や情報発信といった活動目的が固まってからは活発に意見も飛び交うようになりました。徐々に Ritrovo CoCoITA の全体像が完成していく実感があり、ワクワクしたことを覚えています。この経験を活かし、社会貢献をさらに行っていけたらと思います（藤本 昂平）。

この活動を通して、地域で新たな活動を始めることや継続していくことの難しさ、活動を行う上で地域の人や機関とのつながりが大切であるということを学ぶことができました。1 回生で行った学生調査から Ritrovo CoCoITA が完成するまでの活動は、私にとって大変貴重な経験になりました。長かったけれど、私たちの活動が Ritrovo CoCoITA の完成に結びつくことができ、本当に良かったです。将来はこの活動で学

んだことを活かして、地域に密着した活動に携わっていけたらと思います（馬場 友美）。

Ritrovo CoCoITA の開設を目指すにあたって、多くの人の力を借りながら話し合いを重ねていくことができました。そのなかで、私たち大学生と地域の方々が、お互いに立場や考えていることなどを理解することが非常に大切だと知ることができました。これからもさらに相互理解を深め、Ritrovo CoCoITA に大学生や地域の方々の笑顔が集まるように工夫していきたいと思います（阿部 巧）。

最後に、Ritrovo CoCoITA が県立大生にも地域の方々にも愛される、なくてはならない存在になることを願っています。

Ritrovo CoCoITAができるまで

人間社会学部 公共社会学科3年 阿部巧、藤本昂平
社会福祉学科3年 馬場友美

1

最初のきっかけ

平成22年度の社会貢献論演習を受講していた当時1回生の私たち3人は、フィールドワークを通して地域の社会貢献活動を学んでいた。次のフィールド活動について担当教員を含め話していたとき、伊田商店街の名があがった。

「伊田商店街は昼でもシャッターで閉まっているところが多くて寂れている感じがする」
「自分の思っている商店街のイメージと違って、活気がない」

→実際に担当教員と伊田商店街散策へ

2

伊田商店街の活性化に向けて

伊田商店街の活性化を行うために、まず田川商工会議所を訪ね、伊田商店街の情報収集を行った。

伊田商店街側の学生に対するイメージ

学生の多くは伊田周辺には住んでいない、
電車で遠くから通っている。

3

伊田商店街の活性化に向けて

伊田商店街側の学生に対するイメージに誤解があることに気づき、そのことを正確かつ明確に伊田商店街の方々に伝えることが、伊田商店街の活性化を目指す上でまず必要なことであると感じた私たちは、平成22年12月～平成23年1月にかけて学生調査を行い、その調査結果を平成23年3月3日の社会貢献フォーラムIで発表した。

学生の多くが伊田周辺に住んでおり、
徒歩・自転車通学が多かった！

4

社会貢献フォーラムを終えて

私たちの報告内容を知った伊田商店街振興組合の方々が訪ねてきてくださり、平成23年4月29日に学生側と話し合う機会を設けることになった。伊田商店街振興組合の方々は学生の調査に対して好意的に思ってくくださり、このことを受けて、学生側と伊田商店街振興組合側で伊田商店街の活性化に向けて活動を行っていくことが決定した。

平成23年10月12日に第1回伊田商店街振興会議が行われ、月1～2回の頻度で学生と伊田商店街振興組合、田川市役所、田川商工会議所、田川市市議会議員の方々と、学生側と商店街側で行いたいことや活動事業についての助成金、経費維持費等について話し合いを行った。

5

会議をしていくなかで私たちは、

「学生が伊田商店街に集まり、そこで学生と地域の人
が交流できる場を伊田商店街内に作りたい。」という
考えが強くなり、空き店舗を利用したコミュニティス
ペースを作ることを提案した。

この提案について会議の参加者も

「まず学生に商店街へ来てもらうようにする必要がある。」と考えられ、伊田商店街の空き店舗を利用したコミュニティスペースを作ることが決定した。

6

11月の会議で活動事業に利用可能な助成金の説明をしていただき、「中小商業活力向上事業」を活用することが決定した。

また、12月に行われた田川工芸祭に利用する空き店舗を視察し、候補を見つけ報告をする。その候補場所付近の商店街の方々にこの活動内容について説明し理解を得る必要があると考え、12月11日に伊田商店街振興組合で説明する機会を設け、商店街の方々に理解を深めていただいた。

その後、助成金の認定要件や他地域の活動を参考にしながらコミュニティスペースでの事業概要、予算について話し合いを続けた。

7

運営規定や利用規定

(使用できる事業)

第5条 コミュニティスペース（以下「スペース」という）を次の各号に該当する場合使用することができる。

- (1) 学生同士の交流のための使用
- (2) 組合事業のための使用
- (3) 学生、組合、商店街利用住民等の交流の場としての使用
- (4) イベント時の拠点のために使用
- (5) 学生及び組合並びに地域住民等のためにカルチャースクール等を開催するため、貸し出しの許可を与えた者の使用
- (6) その他運営委員会が必要と認めたときの使用

8

(休館日)

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 12月29日から翌年の1月3日までの日
- (4) その他委員会が必要と認めた日

(使用時間)

使用時間は午前10時から午後6時まで（ただし委員会が時間延長について必要と認めた場合は、この限りではない）

(使用料)

組合及び学生が利用する場合は無料とする。なお、カルチャースクールの実施など別の者に貸し出す場合は有料とする。

9

コミュニティスペースの名称決定

コミュニティスペースの開所にあたって、コミュニティスペースの名称を県立大生に募集することになり、学生が伊田商店街コミュニティスペース名称募集をかけた。それらの名称案を会議にもっていき吟味した結果、

Ritrovo CoCoITA

決定!

10

そして、平成24年7月28日、完成したコミュニティスペース：Ritrovo CoCoITAの開所式が行われた。また当日から、県立大の写真サークル「写楽」による写真展が開催され、多くの方がRitrovo CoCoITAを訪れていました。



11

これからの課題

Ritrovo CoCoITAの存在を学生にどのように周知させ、多く利用してもらうようになるか

今後も学生やサークル団体等にRitrovo CoCoITAの存在を周知させるとともに、学生が利用しやすいように利用方法等を修正していく必要がある。

12

この活動を通して

私は、ゼロからモノをつくりだすことの面白さを経験できたと考えています。コミュニティスペースをつくることは商店街の方々も学生も初めてのことで、最初はお互いに戸惑いばかりがありました。しかし、話し合いが進み地域交流や情報発信といった活動目的が固まってからは活発に意見も飛び交うようになりました。徐々にCoColTAの全体像が完成していく実感があり、ワクワクしたことを覚えています。この経験を生かし、社会貢献をさらに行っていけたらと思います。（藤本昂平）

13

この活動を通して

この活動を通して、地域で新たな活動を始めることや継続していくことの難しさ、活動を行う上で地域の人や機関とのつながりが大切であるということ学ぶことができました。1回生で行った学生調査からCoColTAが完成するまでの活動は、私にとって大変貴重な経験になりました。長かったけれど、私たちの活動がCoColTAの完成に結びつくことができ本当良かったです。将来はこの活動で学んだことを活かして、地域に密着した活動に携わって行けたらと思います。（馬場友美）

14

この活動を通して

CoColTAの開設を目指すにあたって、多くの人の力を借りながら話し合いを重ねていくことができました。その中で、私たち大学生と地域の方々が、お互いに立場や考えていることなどを理解することが非常に大切だと知ることができました。これからはさらに相互理解を深め、CoColTAに大学生や地域の方々の笑顔が集まるように工夫していきたいと思っています。（阿部巧）

15

Ritrovo CoColTAが
県立大生にも地域の方々にも
愛される、なくてはならない存在に
なることを願っています。

社会貢献論演習 第一期生一同

16

活動報告 2. 社会貢献論演習成果発表

(2) 学生調査報告（社会貢献論演習受講生）

「Ritorovo CoCoITA 知名度アップと今後の展望について」

松尾綾華(公共社会学科1年)、本永彩果(公共社会学科1年)

谷本大幸(人間形成学科1年)、山口沙耶(人間形成学科1年)

岡本和樹(公共社会学科2年)、田中玲衣(人間形成学科2年)

矢部 航(公共社会学科3年)

まず、最初に社会貢献論演習の授業風景を皆さんにご紹介したいと思います。

第1回：10月2日

第1回目は、先輩方から、以前の社会貢献論演習の授業でどのような活動をしていたかをお聴きしました。

第2回：10月9日

第2回目は、3人の方が来てくださいました。猪位金校区地域活性化協議会会長の村岡さんからは、堤防の補修工事について話していただき、伊田商店街振興組合理事長の北川さんからは、Ritorovo CoCoITA の成り立ちについて、副理事長の岩井さんからは、伊田商店街の歴史について伺うことができました。

第3回：10月16日

第3回目は、伊田周辺のフィールドワークをし、石炭歴史博物館や田川情報センター等を見学しました。実際に田川の町を歩くことで、より田川のことを理解できました。

第4回：10月23日

第4回目は、3人の方から講話がありました。田川広域観光協会事務局長の今永さんからは、その活動について、田川ホルモン喰楽歩の金子会長さんからは、ホルモン鍋と町おこしについて、田川市役所産業振興部の平塚さんからは、伊田商店街の活性化の視点から Ritorovo CoCoITA の成り立ちをお話ししていただきました。

10月29日

猪位金小学校・中学校の統合協議会に出席しました。

第5回：10月30日

第5回目は、猪位金地区でのバスツアーに向けた情報収集、Ritorovo CoCoITA を宣伝するポスター作りを、田川情報センターにて行いました。

第6回：11月6日

第6回目は、猪位金地区へのバスツアーへ行き、猪位金小学校、キクスイ醤油工場など、猪位金地区の視察をしました。あいにくの雨でしたが、猪位金の魅力をたくさん知ることが出来ました。

第7回：11月13日

第7回目は、第2回～第6回までの活動を振り返り、意見交換をして、今後の活動について考えました。

第8回：11月20日

第8回目は、バスツアーで川崎町へ行きました。この日は魚樂園と観光果樹園である laputa ファームを訪れました。laputa ファームの杉本さんから経営のビジョンについてお話を伺いました。魚樂園では、ちょうど紅葉の季節だったので、秋の風景を楽しむことが出来ました。

第9回：11月27日

第9回目は、これまでの振り返りを行い、地域の課題について個別に発表しました。

第10回：12月4日

第10回目は、1限の時間に中里先生からNPO法人宗像里山の会の活動について、2限からは「福祉・保育の現場について」というテーマで第2つくしの里施設長の木村さん、伊加利子鳩保育園主任保育士の日野さん、ジョブサポートみろく施設長の葛原さんの3名の方からお話を伺いました。講師の方と積極的に意見交換ができました。

第11回：12月11日

第11回目は、飯塚市へ最後のバスツアーへ行きました。訪れたのは飯塚市筑穂保健福祉総合センターです。そこに勤務されている3名の方に、それぞれの現場の課題などをお話していただきました。「利用者さんの笑顔が見たいから、この介護の仕事を続けられる」という言葉が印象的で、熱意を感じました。

第12回：12月18日

第12回目は、地域の課題についてのグループワーク、2限の時間は「産業界の求める人材像と大学教育への期待」というテーマの講座に出席しました。この講座では、田川日立マクセル開発グループ技師長の坂田さん、のがみプレジデントホテル営業部法人担当次長の矢野さん、飯塚病院人事課長の中園さんの3名の講師より、各職域の業務内容や求める人材像について話を聞かせて頂きました。学生に今、何が求められているか学びました。

第13回：1月8日

第13回目からは、Ritorovo CoCoITAに関する調査の実施準備にとりかかりました。2限では「まちづくりについて」というテーマで赤村村長の春本さん、赤村特産物センター運営協議会会長の中原さん、前源じいの森常務理事の太田さん、この3名の方々からお話をいただき、人との関わりが町おこしに不可欠だというお話を伺いました。

第14回：1月15日

第14回目は、回収したアンケート結果の集計を行い、また発表内容についての打ち合わせを行いました。

1月28日

その後も、本日の社会貢献フォーラムに向けて準備を進め、昨日は夜遅くまでリハーサルを行いました。